

今週の話題：

＜メッカへの巡礼（ハッジ）のためにサウジアラビアへ旅行する方の健康状態＞

本報告はサウジアラビアに入国する旅行者に必要な全ての条件を通知することを目的としており、以下で明記したこと全てを WHO が保証しているわけではない。

サウジアラビアの保健省は、2014 年に以下のとおりハッジとウムラ（小巡礼）を目的とした入国ビザに必要な要件および推奨事項を発表している。

## \* I. 黄熱：

(A) 2005 年の International health Regulations に従うと、黄熱のリスクのある国や地域（下図参照）からくるすべての旅行者は、入国の少なくとも 10 日以上前であつ、10 年未満に黄熱のワクチンを受けたという有効な黄熱病予防接種証明書を提示する必要がある。

そのような証明書がない場合には、ワクチンを打ってからもしくは、感染に暴露した可能性のある最後の日から 6 日間、個人は、厳密な監視下に置かれる。

入国地（エントリーポイント）の衛生局は、訪問者の住まいの一時的な場所について地域または行政区域内の保健省局長に通知する責任を負う。

下記の国や地域は黄熱の伝染のリスクが高い地域である（International travel and health 2012 より）

アフリカ

アンゴラ、ベナン、ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、中央アフリカ共和国、チャド、コンゴ、コートジボワール、コンゴ、赤道ギニア民主共和国、エチオピア、ガボン、ガンビア、ガーナ、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、リベリア、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、ルワンダ、セネガル、シエラレオネ、南スーダン、スーダン、トーゴ、ウガンダ。

アメリカ大陸

アルゼンチン、ベネズエラ、ブラジル・ボリバル共和国、コロンビア、エクアドル、フランスのガイアナ、ガイアナ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ボリビア、スリナム、トリニダード・トバゴ。

(B) 航空機や船舶、その他の交通手段によって黄熱に感染した地域からくるものに関しては、WHO が推奨する方法に従って害虫駆除されたことを示す証明書を提出するように要求されている。

国際保健規則（IHR）2005 によると、全ての到着船は、有効な船舶衛生証明書を当局に提供しなければならない。

黄熱の危険がある地域から到着する船舶も入港許可の条件として黄熱の保菌生物がない、もしくは駆除されていることの証明に許可書を提出する必要がある（港に入港することや荷物を下ろすことも含む）

## \* II. 髄膜炎菌性髄膜炎：

(A) 全ての国からの訪問者

ウムラや巡礼（ハッジ）または季節労働のためにサウジアラビアに入国する者は、髄膜炎に対する四価ワクチン接種（ACYW135）を 3 年以内、10 日前以上に接種したことの証明書を当局に提出する必要がある。訪問者の母国は 2 歳以上の大人に四価ワクチン（ACYW135）を投与していることを保証する必要がある。

(B) アフリカの髄膜炎ベルト諸国、すなわちベナン、ブルキナファソ、カメルーン、チャド、中央アフリカ共和国、コートジボワール、エリトリア、エチオピア、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、マリ、ニジェール、ナイジェリア、スーダンと南スーダン。

上記の要件に加えて、シプロフロキサシン予防内服（500 mg 錠）をキャリアの速度を低下させるために 12 歳以上の成人に入国前に投与される必要がある。

(C) 内部の巡礼者とメッカ巡礼労働者

四価ワクチン接種（ACYW135）が次の人には必要である。

- ・ 過去 3 年の間に予防接種をされていないメディナとメッカのすべての市民や住民。
- ・ メッカへの巡礼を行ったすべての市民と住民。
- ・ 過去 3 年間でワクチン接種をしていないすべての巡礼労働者。
- ・ 入国地で働いている者や、サウジアラビア巡礼者と直接接触がある者。

## : III. ポリオ：

年齢やワクチン接種状況に関係なく、以下の国からサウジアラビアへ旅行する者は、経口ポリオワクチンの投与量の証明または不活化ポリオワクチンを出国 4 週間以上前、12 ヶ月以内に受けたことの証明書が入国ビザを申請するために必要とされている（2014 年 5 月 16 日現在）。

(A) その国のポリオのウイルスの伝染が治まったことのないポリオ流行国：アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン（2014 年 5 月 16 日現在）

過去 12 ヶ月で国外からのポリオウイルスまたはワクチン由来のポリオウイルスの伝染を経験したことのあるポリオ・再感染国。

(<http://www.polioeradication.org/Infectedcountries/PolioEmergency.aspx> を参照)

これらの国からの旅行者は全てサウジアラビアの到着時に国境地で OPV の 1 回投与を受ける。

サウジアラビアはまたポリオウイルス伝染のリスクが残っているポリオ根絶国からの旅行者にもワクチン接種を奨励している（インド、インドネシアなど）。

#### \* IV. 季節性インフルエンザ :

サウジアラビアの保健省は、巡礼者は、季節性インフルエンザの予防接種をすることを推奨している。特に喘息、妊婦、5 歳以上の小児、高齢者、個人で、慢性心不全や肺疾患、HIV 感染者には強く推奨している。

サウジアラビア当局は、季節性インフルエンザの予防接種は、内部巡礼者だけでなく、メッカ巡礼の敷地内にあるすべての医療従事者、上記のような併存疾患を持っている者に推奨している。

#### \* V. 健康教育 :

国の保健当局は、感染症の症状、伝染、合併症および予防の手段について、巡礼者に情報提供する必要がある。

#### \* VI. 食品 :

メッカ巡礼とウムラを行う者はサウジアラビアに生鮮食品を持ち込んではいけない。缶詰や密封された食品などが、旅行の期間中、一人分のみの少量であれば許可されている。

#### \* VII. 国際流行への反応 :

サウジアラビアの保健局は 65 歳以上の高齢者や慢性疾患（心臓病、腎臓病、呼吸器疾患、糖尿病）や免疫疾患を持つ者、悪性腫瘍、妊婦や 12 歳以下の子供たちに対し、自らの安全のためにメッカ巡礼やウムラへ来るのを今年は延期するように推奨している。

サウジアラビアの厚生省も、一般的な公衆衛生上の勧告に準拠し、呼吸器感染症のまん延を防止するために、以下のように推奨している。

- ・咳やくしゃみの後、石鹸と水または消毒剤で手を洗う。
- ・咳やくしゃみや廃棄物処分する際には使い捨てのものを用いる。
- ・目、鼻、口と手の接触を可能な限り避ける。
- ・咳、くしゃみ、痰、嘔吐、下痢などの症状を持った者との接触を避け、所持品の共有も避ける。
- ・特に混雑した場所ではマスクを着用する。
- ・良好な健康状態を維持する。

ワクチンで予防可能な病気に対するワクチンの追加接種をすべての旅行者に強力に推奨している。海外旅行の準備は良い予防接種の状況を検討する機会となり、地域特長的に必要とされるメッカ巡礼用の髄膜炎菌ワクチン接種などとは別に不完全な摂取状況であれば国の予防接種スケジュールで推奨されているルーチンの予防接種を受けることができる（ジフテリア、破傷風、百日咳、ポリオ、はしかやおたふく風邪など）。

国際的に健康への影響が懸念される公衆衛生上の危機が発生した場合、または、国際保健規則（IHR）2005 において届出が必要な対象になっている疾病が集団発生した場合には、サウジアラビアの保健当局は、巡礼中または帰国時に感染の拡大を避けるため、WHO と相談の上、上記の措置には含まれていない追加的な予防措置を実施する。何か質問があれば、サウジアラビアの保健 (Abdullahm.asiri@moh.gov.sa) で相談できる。

#### <世界ポリオ撲滅計画 (GPEI) : 第 10 回独立モニタリング委員会会議 (IMB) の概要>

IMB はイギリスのロンドンで 2014 年 5 月 6-8 日に第 10 回の会議を開催した。

この会議後 IMB は、ポリオ監視委員会 (POB)、疾病管理予防センター (CDC)、ユニセフ、国際ロータリー、ビル・アンド・メリнда・ゲイツ財団に第 9 回報告書を公表した。

2012 年後半、GPEI の目標に関して相当な楽観論が存在していた。インドにおけるポリオ伝播が根絶され、残りの 3 つの流行国（アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン）が大幅な改善をしていた。しかし、数ヶ月、次にあげるイベントによってこの目標を達成する可能性は低くなった。

- ・パキスタンにおいてポリオワクチン接種提供者を標的とした殺害は世界に衝撃を与え、運用上の制約を作ってしまった。
- ・ポリオウイルスが、パキスタンの一部である、ワジリスタンに伝播し、この地域はタリバン指揮官によってポリオワクチン接種が禁止されている。
- ・パキスタンのポリオ撲滅を管理するための国家的組織は強化が必要な際に解体した。
- ・ナイジェリアの治安状況が悪化し、ワクチン接種提供者の生活ができなくなり、組織の運営が厳しくなった。
- ・ポリオウイルスは、アル・シャバブがワクチン接種を禁止しているために、ナイジェリアからポリオの危険に晒されていたソマリア南部に伝播した。
- ・ポリオウイルスは、シリアからパキスタンに伝播し、国の内戦中に大きな広がりを見せた。

・パキスタンからのポリオウイルスはまた、イスラエル、ヨルダン川西岸とガザ、イラクに広がり、ナイジェリアからのポリオウイルスは、カメルーンと赤道ギニアに伝播した。

2012年に5カ国でポリオが223例発生したが、2013年には8カ国で407例の発生が見られた。

2013年および2014年の最初の数ヶ月の間に、2013年に起こってしまったポリオ撲滅に対するマイナス動向を転換しようとして関係国と全世界が取り組んできた。

・ナイジェリアは多くの地域でワクチン接種率を向上させ特にカノで顕著に上昇した。都市で最も高いリスクの高い地域でもポリオ伝播の実質的な減少が起きている。

・アフガニスタンはパキスタンからポリオウイルス伝播の脅威と隣り合わせであるが、ポリオ伝播は順調に減少しており、2014年の終わりまでにポリオ根絶する見通しが出てきた。

・ソマリアでは、ナイジェリアからもたらされたポリオウイルスによって起こった集団発生に強力に取り組んだ結果、伝播はかなり減少した。さらに2013年10月のIMBの批判に迅速に対応し、アフリカの角とも連携を強化した。

・パキスタンでは、ペシャワールやカラチでポリオの接種の安全性を最大化するような方法で、ポリオワクチンを小児に接種する革新的な取り組みが行われている。

・パキスタンからのポリオウイルスがシリアで検出された際には、複雑な紛争の環境下ではポリオ撲滅への取り組みへの効果がかかり厳しいと思われたが、その環境下に関わらず、IMBの見解では、シリアや地域全体で取り組みは功を奏している。

・ポリオ撲滅の重要性を認識している国際諸国は、IMBが推奨していた国際保健規則（IHR）に則って緊急委員会を招集した。この声明により、WHOはポリオのある地域（現在はカメルーン、パキスタン、シリア）から海外に渡航する際には、旅行者に旅行前のワクチン接種を推奨している。この声明はすぐに、これから渡航する際にナイジェリアやその他の国に適用される。

グローバル・パートナーシップは、2012年に作成された計画を取り戻そうとかなりの進歩を遂げています。しかし、IMBは、ポリオ・コントロールがいまだ十分であると発表できないでいる。

これは特に、ポリオ伝播を止めるために2014年の残りの7ヶ月ではパキスタン国内では非常に難しい状況となっており、さらにナイジェリアは、間近に迫った選挙結果次第ではその取り組みを遂行する機会が失われる可能性があるからである。その取り組みを以下に要約する。

・パキスタンの状況は問題点が山積している。パキスタンのポリオ撲滅への取り組みは他諸国の取り組みからは数年遅れている状態である。現在のように構造体制では、首相のポリオ監視の構造として、ポリオに対する効果的な行動を何もとれない状態にあり、総務府の強力な指令が必要となる。現在、パキスタンは世界で最後のポリオ流行国になりそうな状態である。それは一番ポリオ根絶に向けた季節であっても、2012年の全体の発生数と同数の発生数が2014年の最初の4ヶ月のみで見られ、これは実に2013年の同期間のように9倍に相当する数である。ペシャワール、カラチとクエッタでは少し取り組みに進展が見られたが、ポリオ伝播を阻止するのに十分なものとは言えない。政府と大統領が早急にこの状況を打開するために緊急時の対応策を作成する必要がある。

・ナイジェリアは、歴史的にみても非常にポリオ蔓延数が低下しているが、このまたとない機会を活用できない危険性がある。ここ数ヶ月の取り組みは評価できるものであったが、次の選挙結果はすでに明らかとなりつつある。ボルノにおける女子学生拉致事件は、主要なポリオ感染地域での緊張と危険を高めるとともに、国と地方組織との関係性を壊し、地域社会や家族の政府に対する敵意を生んでいる。IMBはナイジェリアでのポリオ撲滅プログラムが崩壊する危険性を発表している。ナイジェリアのプログラムには多くの献身的で有能な指導者や第一線で活躍している職員がたくさんいるが、彼らとそのプログラムの必要性を再認識し、これまでの取り組みを無駄にしない努力をすることが必要である。この取り組みが成功することは、国のために非常に重要でアフリカからのポリオ撲滅への鍵となるものである。ナイジェリアがポリオ撲滅に失敗するとポリオ蔓延のとてつもない脅威となる。

世界的に、2013年に大流行したポリオは2014年でもポリオ撲滅を困難にさせており、ポリオ撲滅に向けて感染予防と対応は過小評価されている現状がある。以下のようにIMBは締めくくっている。

・中東で発生したポリオ流行に対する対応は強力であり、今後もそれを続けなければならない。

・イスラエルでのポリオ流行は止まったように見えるが、蔓延に危険な季節での流行をしっかりと監視する必要がある。

・アフリカの角のポリオの流行への対応は少しずつ効果を示し始めているが、特に50万人の子供たちがワクチン未接種であるソマリアやソマリ地方が特に懸念されるエチオピアや南スーダンにもしっかりと浸透させる必要がある。

・中央アフリカでは、ポリオに対するカメルーンの対応は遅く懸念材料である。

・ポリオへの取り組みがすでに26年間稼働していることを考えると、予防の対処法はあまりにも粗末なものである。ポリオに対する免疫やそのリスクに対してしっかりした計画が必要である。多くの国はポリオの免疫が働き始める時期についてしっかりした対処法が分からないままである。「レッドリスト」

は現在、最もリスクが高い国を意味するが、その地域での対応は遅く、全く洗練されたものではない。ポリオ撲滅に向けてのプログラム構築にはその専門性を向上させるために、献身的なスタッフの育成も急務である。現在の取り組みは、すでに感染した地域に力を注いでいる人達による同時複数業務に委ねられており、これは緊急の際の対応がうまくいかない事になる恐れがある。

このレポートの最後のセクションでは、グローバルなプログラムとして重要な横断的に領域について述べている。IMB がその重要性を強調し始めて以来、取り組みの改善が見られているが、以下のとおり問題点が残っている。

- ・ワクチン接種提供者は、ワクチンの必要性について効果的かつ説得力のある回答をする必要があり、ワクチンの第一選択薬の見極めと接種提供者のトレーニングが必要である。

- ・現在のポリオへの取り組みは、社会的に動員された人達による貢献を認める、もしくは彼らの業務の質を判断することを容易にしていなかったため、しっかりこの取り組みに対する評価法を確立する必要がある。

- ・プログラムの残りの課題の解決に貢献する社会的人員の必要性を鑑みる人、それについて懐疑的な人の間で更に深い話し合いが必要とされる。この話し合いによって、社会的動員のための技術の使用を必要と感じる人と懐疑論者との間で多くの共通の基盤を構築されるであろう。

- ・不安感や危険性は根絶への大きく複雑な障害物となっており、取り組みもこれらをふまえた上で作成するようになっている。IMB の強い関心を抱いていることは、仕事の速さと必要な専門知識の習得能力をどれほど協力しているかであり、これらの協力体制、調整には注意が必要である。

- ・ポリオ撲滅への取り組みの資金提供者は、彼らが必要とする情報をいまだ得ておらず、取り組みの昔からのパートナーの一部はなくなってしまっている。

最後に、POB は IMB の勧告に従い、プログラムの見直しを委託しており、プログラムの手法を変革する可能性があり、柔軟に変える必要がある。IMB はこれに対してこれらを支持し支援することを表明している。

1988 年には世界のすべての国がポリオ撲滅を決議し、2000 年までに撲滅するように計画されていた。しかし、最終段階としてここ 14 年間はその効果は厳しいものであった。わずか 3 年前に言われた最後の仕事としての「最後の 1%」という言葉はいまや皮肉に聞こえるまでになっている。ポリオ撲滅への取り組みはこれまでにいくつもの命を奪い、費用もかさむものであり、寄付も減少し、公衆衛生の向上も思うように見られなかった。世界的なポリオ伝播を撲滅するという目標はなかなか達成されることはなく、目標としていた 2000 年、2004 年および 2012 年では全て GPEI の目標が達成されなかった。

2014 年末期限の対策では、ナイジェリアとパキスタンがポリオ撲滅に失敗をする恐れがある。現在の大流行のどれか一つでも長期化すると、他の地域でも非常に流行のリスクが増加する。これらのことを考えると、IMB の分析では 2014 年末までにポリオ撲滅を目指す計画は、かなり難しいかもしれない。

世界保健総会は、世界的な公衆衛生の立場からポリオ撲滅の緊急性について宣言している。ポリオは急速に根絶しなければならず、失敗は許されない。絶滅に向けて最後の 1%をはやく根絶させねばならない。2015 年にポリオの障害を持って産まれた子供は病気を回避出来るはずであったと嘆くであろう。

このような悲劇を避けるべく、ナイジェリアは 2014 年までに、パキスタンはポリオ撲滅の取り組みを再構築し、予防と一貫性とあるポリオ伝播への対応について努力をしなければならない。

IMB は以下のように推奨している。

1. パキスタンの最近の自然災害や他の国のポリオの伝播を踏まえ、パキスタンで緊急オペレーションセンター (EOC) を設立した。公務員や、国、地域、地方政府の代表者、宗教指導者だけでなく、軍の指導者たちの理解がこの取り組みに重要である。IMB は、EOC がこの緊急事態に作用してくれることを望んでいる。
2. 世界ポリオ撲滅推進計画のコアパートナー機関の長は、パキスタンのポリオ撲滅プログラムに向けて、資源や電力、改革を実行する能力と強力な国家機関として新たに EOC を確立するために、パキスタンの大統領や首相と早急に話を詰める必要がある。
3. ナイジェリアの大統領はその人道的役割として、ポリオ撲滅プログラムを破壊したり、その他の政治的な圧力を排除し、ナイジェリアの子供たちの命を救うために、宗教指導者とも共に、今後の選挙では、各国の、州および地方の候補者にもそれについて一緒に行動するように求め、実行する必要がある。
4. POB は中央アフリカでのポリオ撲滅に向けて、アフリカの角や東アフリカよりも中央アフリカでのポリオに対する対応が非常に弱いかを分析出来るコーディネーターを 2014 年 7 月 1 日までに擁立する必要がある。
5. ポリオ流行に対応できる新しい専門チームを国際レベルで構築すべきである。その最初の仕事としてはポリオへの対応の標準作業手順を強化することであり、将来的に確実に功を奏するものとなると確信している。
6. 専門チームはレッドリスト諸国でのポリオ蔓延に対して早急に改善策を確立すべきであり、それに向

けての予測と演習は非常に大事な取り組みである。

7. 協力者は IMB 報告書の社会動員の分析に基づいて、社会のより大きな信頼を得るために行動しなければならない。

8. 特にワクチン接種提供者とその管理者がコミュニケーションスキルを向上させるために、ユニセフや CDC および他のパートナーは柔軟に協力すべきである。

9. パキスタンとナイジェリアはワクチン供給の柔軟性を確保するために、6 カ月以内経口ポリオワクチンのライセンスを取得するよう緊急の措置をとる必要がある。

10. ポリオ撲滅のための予算の透明性とコミュニケーションに関する懸念や不安には適切かつ公然に対処しなければならない。POB の議論によって達成されれば良い。

11. 進行中であるマネジメントレビューに関しては、POB は、経営コンサルタントとしての分析と助言を受けるために、多くの企業での経験を持つ幹部や経営の専門家の諮問委員会を任命し、専門家の助言を受ける必要がある。

IMB の次回の会議は 2014 年 9 月 30 日から 10 月 2 日まで英国のロンドンで開催される予定である。

(小川真人、小寺さやか、堀裕一)